

ありては山鳥の類はきくそ始末は
 困の上、到底奉るおすまのた
 とて假し剥きぬこししからん
 汗もあふまきまう地やあつこし
 ちりりしやの美茶の方りの曲を
 とあうは迷感なく、わめとま
 く双棲いたさむるこゝ大雅を字
 ぬちのこゝ又中を剥くまひす
 召さししとすし未二つ共あるは
 白濁所記とされと買便うう大

天の心

依きまほしし付先にはおは
 交便とらけく何そ外のおこ
 文を付するし
 十一りし

市もあは

取

明治四年 月

